

# 第8回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議 会議録（ダイジェスト版）

資料2

令和3年12月23日、西脇市役所（大会議室）において、「第8回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議」を開催しました。

会議では、第7回検討会議のテーマ「適正な学級・学校規模と適正配置に伴う通学条件・施設環境」に関する協議及び、市が提案する「これまでの協議を踏まえた適正規模・配置（案）」について説明し、意見交換を行いました。

## 第7回検討会議の意見整理

と き : 令和3年10月22日  
と ころ : 西脇市役所 大会議室

第7回検討会議では、「適正な学級・学校規模と適正配置に伴う通学条件・施設環境」をテーマに委員から様々な意見が出されました。出されました意見を次のとおり整理し、今後の協議に反映していくことを確認しました。



1

### 「学校選択及び対応」について

～委員からの意見・回答～

- 就学する学校を選べる「学校選択制の導入」について
  - ・ 条件付きでの学校選択制も、最終的に学校自由選択につながりかねないことから条件付きでの学校選択も難しいとの回答
  - ・ 既存の制度を活用しつつ、特別な事情を持つ児童・生徒についてのみ対応

2

### 「学校配置の整理」について

～委員からの意見と回答～

- 中学校区をまたぐ再編の提案・意見
  - ・ 持続可能な教育環境の確立という視点の重要性
  - ・ 立地適正化計画等との整合を図る視点を持つべきではないかという意見

3

### 「小中一貫教育」について

～委員からの意見・回答～

- 9年間の義務教育を一つのシステムでつなぐことの効果
  - ・ 児童・生徒の実態・学ぶ内容などによって、学年の区切り（中1ギャップなど）を工夫できるという意見

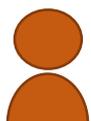
4

### 「学校施設・通学条件」について

～委員からの意見と回答～

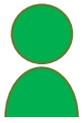
- 少子化が進む中での登下校の安全対策について
  - ・ 適正距離未満でも低学年の少人数であればスクールバス等の対策の検討の必要性

## ○ 本市が考える「学びの質」について



どのような教育を目指したいのか、教育委員会側から具体的に提示していただき、それを踏まえどれがシステムとして当てはまるのか、議論していきたい。

## ○ 市が提案する「これまでの協議を踏まえた適正規模・配置（案）」について



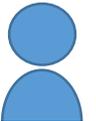
小学、中学、高校、大学と進むにつれ、ある程度の人数が確保できたところで教育を受けるやり方が良いと思う。

学校がその地域なくなるとその地域のまちづくりに影響が出ると思う。



学校だけにまちづくりの責務を負わず、コミュニティ・スクールや新しい仕組みを考えることが重要だと思う。

まちづくりに関する議論とコミュニティ・スクールをどうやって盛り上げていくかということを考える必要があると思う。



これまでの説明や議論で、学校の統廃合も仕方がないことなのかと思うところがある。

子どもの数を見ると4拠点案は少し難しいように思うが、段階的に適正化を考えるならば、4拠点案も考慮すべきだと思う。



4拠点案だと、5年10年後にまた統廃合を検討しないといけなくなるように思う。3拠点2拠点など、思い切った案の方がいいのではないかと思う。

3拠点であれば、3拠点目は義務教育学校にするのが良いのではないかと思う。



子どもの数を見ると、将来的に3拠点では成り立たず、いずれ2拠点、1拠点になっていくのではないか。

中学校のことを考えると、2拠点若しくは1拠点も検討してみてもいいのではと思う。



教育のことだけでなく、西脇市の財政面のことも勘案すべきだと考えるので、より直接的な数字を提示してほしい。

小規模特認校について、魅力のある学校だと思っているが、全ての案で廃止の方向になっているのは残念に思う。

